

新訂「倭文往来」 (現代語訳版)

－はじめに必ずお読み下さい－

1. この「新訂『倭文往来』（現代語訳版）」（以下、本書）は、著作権に関し日本国の著作権法（昭和四五年法律・第四八号）の適用を受けます。
2. 執筆者は、本書が貴重な郷土史資料の復刻版であり、郷土史を考える総ての人が利用できるならば、本書は公共の福祉の増進に役立つと考えます。それ故、個人もしくは公共機関及び組織が、研究用の資料として本書を利用する場合、原則として無償で一般に公開します。
3. しかしながら、上記第2項に該当しない例外行為、例えば利潤を目的とする本書の複写や配布などは、その多寡を問わず執筆者の承諾が必要ですので、必ず御連絡・御相談をお願いします。
4. 参考文献として採用した底本には、「漢文遣いの使用」、「旧字体漢字の使用」、「誤字・脱字・冗字等の間違い」、「事実関係の誤認」、並びに「いわゆる『不適切用語』の使用」等の問題点が、ある程度存在します。
5. 執筆者は、本書をできる限り底本に忠実に復刻しましたので、上記4項に述べる問題点の責任を一切負いません。本書の利用者は、これらの問題点に特に留意し、あくまでも自己責任にて御利用下さい。
6. 上記すべての項目に関して、執筆者と連絡をとる必要があると思われる方は、まず復刻者まで御一報をお願いします。

－ 以 上 －

著 作 権 表 示

新訂「倭文往来」（現代語訳版）

デジタル再入力・再編集 2005（平成17）年7月1日

Copyrights All Reserved By Mignon M. Mazda 「松田 實」

一、本文

新訂「倭文往来」（しとりおうらい）

美作国 久米北条郡 倭文庄 油木北村 字 向屋敷
本多（鹿八郎）應之助の筆と伝承された書に加筆

ここ、即ち大昔は秋津島（あきつしま）と呼ばれた本州、山陽道のうち、精錬された鋼鉄を産出する吉備（きび）の国の美作（みまさか）の地、久米の皿山のふもとの北西の里にある久米北条郡の中にある倭文庄は、京都を去ること六十四里（約250km）、江戸への道のりは百七十里（約670km）、同美作の国津山城を離れる事二里（約8km）、或いは三里（約12km）から五里（約20km）の範囲である。

村の数は、昔は六ヶ村で、今は十四ヶ村である。油木北村、油木上村、油木下村、里公文中村、里公文上村、里公文下村、山手公文南村、山手公文北村、桑上村、桑下村、福田上村、福田下村、神代村、戸脇村である。

東は錦織（にしこり）村と境を接し、西は通谷（かいだに）村である。この間三里（約12km）余りである。南は打穴村、北は一色村までで、この間は二里（約8km）内外である。田畑を合わせて収穫量は七千石（126,273立方メートル）で、昔は七百貫（約2.6トン）であった。

ここを流れる川は二筋ある。一つは油木村より流れ出て、鶴府（津山）の城下を経て袂川（加茂川）と合流し、備前の国の金岡の港に出る。これを倭文川と称する。川上に倭文神社が有るのでそう呼ぶ。

あと一つは山手北村より流れ出し、余野川と称する。川上に余野大明神が在り、旭川へ合流して、備前の国の岡山を通過して福島港に出る。〔注記. 現在の「通谷川」で、「余野大明神」は明治期に里公文の高津神社へ合祀されたが、小社が現存している〕

名所旧跡は数々ある。その内訳を示すと、まず古城の跡が五ヶ所ある。

油木北村の高山城は、永正年間（1,500～1,520年）土居兵庫頭がこれを築き、領地としては七百貫（約2,625kg）を領有し、倭文庄吏（領地の管理役人）となる。この場所は随一の要害孤峰にて、南東の険しい山道が十余町（約1.2km）ある。北西に水源と間道（抜け道）がある。応仁年間以後の兵乱（1,467年～）において土居家は断絶し、戸脇村に埋葬した。この所を兵庫土居と称する。

その後、赤松飛驒守範景がここに居住し、その子高山權之介は、浦上宗景によって滅亡した。天正年間以後（1, 573年～）、宇喜多直家が備前の国と美作の国を統一し、その家臣である江原兵庫助景親がこの城を持った。もっとも、江原兵庫助景親は中山手里村の常山城を居城とし、その父である江原和泉守、又その弟である江原又四郎が篠向山城、高山城と交代で見張り番の役目をしていた。

文禄・慶長年間の頃、太閤豊臣秀吉公が朝鮮を征伐した時（1, 593～94年及び1, 597～98年）、江原主従もその軍隊に加わり、釜山の海港にて江原兄弟は落命した。家臣の地衛門尉が遺言命令を受けて帰国し、金龍山江原寺を建立して江原家の菩提を収めた。こうして江原氏はこの地では断絶し、家臣の人々は近くの郷へ離散して民間へ零落した。

里公文中村の平福寺城は、天正年間の頃毛利左近太夫が居住していたが、農民一揆の為に没落した。子孫がその里にいる。里公文上村の円住寺山城は、天文年間（1, 532～1, 554年）赤松孫十郎が居住していたが、遺跡は不詳である。山手公文北村の萩丸城は、沢源治兵衛がこれを持っており、神代村の砥岩城は、河西四兵衛が居住していたという伝説があるが、この両所とも遺跡は不詳との由である。

大きな神社が五ヶ所ある。第一は、大宮と呼ばれる貴船大神宮が、桑村に鎮座している。第二は、高津大明神が里公文上村の難波山に鎮座している。その御神体は、八幡宮の皇子の大鷦鷯尊（オホササギノミコト）仁徳天皇が、摂津の国は難波都の高津宮に住まれた故に、難波山の高津大明神と祭っている。第三が戸脇村の天満宮である。これは醍醐天皇の右大臣であった菅原道真公を祭っている。

[注記. 戸脇天満宮は、明治期に貴船（貴布弥）神社に合祀され、現存しない]

第四は油木北村の志津大明神、即ち神代賤媛命（カミヨシヅメノミコト）を祭っている。第五は同油木北村の村上宮兒大明神である。ここに祭られている神様は、掛卷麻久母惶岐奇爾畏き（カケマクモカシコクソノトウトキカシコキ）天照大日留賣尊（アマテラスオオヒルメムチノミコト：天照大神）である。ここを昔は日止里神社と称して祭り、倭文本宮と唱えて崇め尊んだという古い記録がある。いつの頃からか、五宮の中では席が下になっているが、その理由を知ることは不可能である。

上記の五社とも祭礼を一ヶ所にて例年九月十三日に行う。神事行幸の場所は、桑上村の地内で福田下村との境界にある倭文芝の広野である。祭礼の立会は同日の四ツ時（9時50分頃）、宮立ちは九ツ（正午頃）の神揃え、八ツ（14時10分頃）に御神事を行い、七ツ（16時20分頃）に引払い、暮六ツ時（18時40分頃）の宮入りである。

[注記. 江戸時代は日出日入を基本とする不定時法なので、各時刻は秋分の日の場合]

この祭礼式の荒っぽい事は、隣国無双である。荒っぽい御供の人々が走るのである。いわゆる京都の北条祭を移したものであって、京都では神馬を跳ばすが、当所においては警護の人々が自から走り飛ぶ。神具は数百本、猩々緋・金襴・羅紗緋・縮緬・緞子等の幟を建て並べ、太鼓を叩き、笛を吹く。皆々獅子や神輿を担ぎ、人々は根限り（一所懸命）走り飛んで御旅所の芝へ行く。その道中の三ヶ町（約330メートル）ほどの間は、手を地面に付ける程の場所で、格別に厳しい。

この所の者で、産子場（同じ産土神を祭る場所）の若者は、自ら第一に肌脱ぎし、玉綿のたすきを掛け、手に縄を着ける。金剛力士のような力を出して神輿を引き、行幸の場所へ着くことの早い遅いを争う。その賑わいは他とは異なり、稀代まれなる祭式の故、各々の氏子が居住している村々は云うに及ばず、三、五里（約12～20キロ）四方の老若男女、津山の藩中からも群衆に交わってこれを拝む。

上流階級の人々は、男女の召使いらに折り詰め弁当箱や、小さい竹筒等の器を持たせて来て、重い瓶に入れた酒や肴を運ばせて寄り集まり、行幸の芝生の中に座を構え、縁取りのある敷物の上に華毛の織物や座蒲団等を敷いて、昼食の酒宴を催す。中流階級の人々は、自分自身の弁当箱、食籠という食物の容器、漬け物、瓢箪に入れた酒を持って来て、柿渋を塗った紙を敷き、風呂敷を広げこれに座る。下層階級の人々は、お焦げ混じりの握り飯を着物のたもとに入れて来て、梅干や漬物の入った竹皮の包みを出してこれらを食べる。

下女、下男、主人に仕えている侍、一般の女性などは、商人の店先へ立ち、アユ寿司、サバ寿司、焼スルメを噛み、天窓道場（空の下で座らずに居ること）である。子供達は、甘酒を飲み、ふところには饅頭、餡入り餅、唐揚げ菓子を食い、余分なものは投げ捨てて、その跡がはなはだ多い。商売人たちは、呉服、小間物、菓子類、うどん、ソバなどを大声で売り立てる。

相撲場においては、エイエイの声がやまず、力の強い者たちが汗を流して闘う。その勝敗の行方を考え、タバコの吹殻を落し掛けて羽織の袖を焼いたりしながら輪になって立ち、肩を凝らせながら見物する。その他の芸人達や見物の総人数は計り知れない。夜に入ると、御神輿を迎える高提灯を数十本建て、手には小さい提灯を持って来て、チョーウサ、チョーウサと唱え、警固する。誠に田舎にても稀なる祭式である。

[注記. 残念ながら、現在この神幸は行われていない]

この倭文芝の真中に、一樹の大きな榎（マキ）の木が在る。この村中に生れた者が死んで迷途へ行った時、閻魔大王様より「倭文芝の榎の枝はどの方角へ向っているか？」と問われるとの言い伝えがある。

[注記. 再編者の記憶によると正解は北西であるが、残念ながらこの榎の木は既に無い]

福田上には一ヶ所に八社の荒神社があり、この里を八社（ヤサ）谷と称する。山手公文北村の王森神社、油木北村の十勝塚、この両所は敏達天皇の御遺跡である。桑村の宿禰塚、これは倭文宿禰の墓所である。油木北村の妙見宮は、倭文宿禰の祈願所であって、大昔は四間（約7.3メートル）四方の大きな神社があったと言い伝えている。

油木北村の妙見宮がある所を末兼の里と唱え、この庄の詰まり、倭文川の上流である故に、末を兼たとの言われがある。また、同所にある濃之堂の楓（カエデ）の葉は、日に照らされて葉色が移り変わるといふ、折々の名木である。津山藩森中将家のお殿様が紅葉を御覧になった旧跡である。この山の頂上を明大寺山と云う。大昔は大きな寺であったが、切支丹宗学（キリスト教カトリック）であった為に滅亡してしまった。

この峰はこの庄第一の高い山であり、龍王社に龍駒（神馬）の足跡が石の表面に残っている。同所から四方を見渡せば、東は津山の鶴山城を眼下に見る。南東方向に久米の皿山、後鳥羽上皇がふもとで御休息された無露山、それを隔てて八神上山、宮本山寺、柏社山誕生寺、ここは源空法師（法然上人：浄土宗の開祖）が生まれた所である。

弓手（左手）方向には、高き泉山神宮、神楽尾、烏帽子形、神南備山、嵯峨山、榊形山、天笠山、局笠山が見え、景山法性寺は悪七兵衛の古跡である。

[注記. 藤原景清の菩提寺として、鏡野町古川に景清山寶性寺として現存。「平家物語」の「平（悪七兵衛）景清」と混同した模様]

馬手（右手方向）には、三里（約12キロ）向こうに荒神山、江見鷲山、菩提寺山の古城跡は弥平兵衛宗青（平宗盛の家臣：「源平盛衰記」参照）の出身地である。遙かに向こうは、吉野郡（現在は英田郡）の行者嶽、後山、梶並山、二子山、諾ヶ仙は中国随一の高い峰である。

見留（視界の限界）は、播磨の国の八登寺山である。見渡たすと西には備中の国の大麻山、成市、高瀬、三室山、足立野山、天福山、備後国の中野山が見える。遙か遠目には、出雲の国と石見の国の境にある三瓶山がかすかに見える。北方向は、当国の櫃ヶ仙、鷹仙、蒜山、尼ヶ子仙、古くから名高き三坂山、烏ヶ仙、鐘ヶ仙、因幡の国の千洲山、佐治谷、伯耆の国の三徳山が見え、大神山は日本第四の高峰にて水無月（旧暦6月）でも雪氷を保っている伯耆大山である。

南は二上山両山寺が真向かいに見える。智證大師（円珍大師）の墓所である。遙かに向こうは、備前の国の本宮山、金山は豊臣秀吉公が雨乞いの祈願をした霊場である。次に中山、鞆山、児島の常山、幸峰、瑜珈山、粒江山、福南山、天神山、四国の海面に浮かぶ小豆島、塩飽七島が一眼に見える。讃岐の国で名高き象頭山（金比羅山）、お釋迦山、厄切弥谷、我拜師山というのは弘法大師（空海）が修行した万願嶽であり、弘法大師の誕生した所である。

また、屏風ヶ浦、五岳山、雲辺寺山、大川山、屋島の岩山、緑ヶ嶽、五剣山、壇の浦、阿波の国と土佐の国の境であり常に雪がある剣山、高鉢山（讃岐小富士）、飯野山、塩入山、伊予の高峰石鎚山、伊予富士、興居島、高縄山、安芸の国の野呂山、灰ヶ峰、御手洗山がかすかに見える。明大寺山は、この十ヶ国を一眼に見ることができる高い峰である。

さて、また寺院には、山手北村に夢中山幻住寺がある。これは元弘年間の頃（1, 331年）、後醍醐天皇が隠岐島へ御遷幸のみぎり、院庄村の御宿にてこの山に観世音菩薩が座して居られるという夢を見た為に建立された霊地である。宗旨は曹洞宗の禅宗であり、備中の国の横谷（現在は矢掛町）の洞松寺の末寺である。

里公文中村の善福寺、桑村の慈恩寺、福田下村の真光寺、この三ヶ寺は天台宗であり、近江の国の比叡山延暦寺の末寺である。その他小さな社や仏陀の堂庵、古跡などが数多あるといえども、筆記する労力に厭気がするので、これを省略する。

記録によれば、総てこの庄の人々は勇猛の気を含み、文武の道も好んで習い学ぶと見識が高く道理に通じた古老の人々が申し伝えている。巨細筆に尽くし難く、追々筆を取って一覽に備えることにする。よって倭文往来はこの件のごとしである。

文久二年壬戌（1, 862年）の中秋にこれを記す。

— 本文終了 —

二、「編集注記」

1. 漢字字体は、JIS1種及び2種水準により、これにない字は現代用語に変換。
2. 原文における句読点は確認出来ず。参考文献に従い、適宜間隔を挿入。
3. 原文における段落分割は確認出来ず。記事内容に従い、適宜改行し分割。
4. 誤字、脱字、及び明確な事実誤認は、復刻者の責任範囲内で適宜訂正。

例. 「二上両上寺」→「二上山両山寺」

三、「参考文献」（底本及び参考資料）

1. 「久米郡誌」1923（大正12）年刊行 久米郡教育会 編纂・発行
2. 「吉備文庫」1929（昭和4）年～
1932（昭和7）年刊行 山陽新報出版部 発行
3. 「倭文志稿」1952（昭和27）年刊行 寺坂五夫・槇茂雄 共編・発行
4. 「久米町史」1984（昭和59）年刊行 久米町教育委員会 発行
5. 「鏡野町史」1993（平成5）年刊行 鏡野町史編集委員会 発行
6. 「岡山県名勝誌」1915（大正4）年刊行 岡山縣内務部 発行

明大寺山（天子山・標高646.3m）から見えるとされる地名一覧

原文の名称	現代の名称	備考・その他特記事項
久米皿山	[不詳]	「古今和歌集」に記載、諸説あり不詳。 「神南備山」、「嵯峨山」又は「笹山： 岡山県津山市皿・標高306.0m」が、その 有力候補とされる。
無露山	露無山	岡山県勝田郡勝央町岡・標高268.0m
八神上山	上山 [上山三角点]	岡山県美咲町越尾・標高296.0m
宮本山寺	宮本山寺両仙寺	岡山県美咲町北庄・両仙寺
柏社山誕生寺	枋社山誕生寺	岡山県久米南町誕生寺里方・誕生寺
泉山神宮	泉山	岡山県鏡野町岩屋・標高1,209m
神樂尾	神樂尾山	岡山県津山市総社・標高308.4m
烏帽子形	龍王山	岡山県美咲町新城・標高370.0m
神南山	神南備山	岡山県津山市一方・標高356.2m
嵯峨山	嵯峨山	岡山県津山市中島・標高288.8m
枋形	枋形山	岡山県鏡野町加々美・標高645.2m
天笠山	天ヶ山 (尼ヶ山)	岡山県鏡野町中谷・標高765.8m
局笠山	局笠山 [御局三角点]	岡山県津山市戸島局笠・標高245.5m
景山法性寺	景清山寶性寺	岡山県鏡野町古川・景清山寶性寺
荒神山	(種村三角点：推定)	岡山県津山市種・標高480.4m
江見鷲山	(川崎三角点：推定)	岡山県美作市原・標高300.3m
菩提寺山	菩提寺	岡山県奈義町高円・標高627.1m
吉野郡行者嶽	(舟木山：推定)	岡山県美作市後山・標高1,334.0m
後山	後山	岡山県美作市後山・標高1,344.6m
梶並山	(滝山：推定)	岡山県美作市滝・標高583.9m
二子山	双子山	岡山県美作市小野二子山・標高398.6m
諾ヶ仙	三室山 [三諸山]	兵庫県千種町河内・標高1,358m
播磨八登寺山	八登寺山	岡山県備前市八登寺山・標高538.6m
備中大麻山	大佐山	新見市大佐・標高988.5m 往古の名称は、大阿蘇山
成市	桑平山	岡山県新見市千屋実明石・標高1,111m
高瀬	(無名峰：推定)	岡山県新見市神郷高瀬・標高1,064m
三室山	三国山	岡山県新見市神郷釜村・標高1,126m
足立野山	天銀山	岡山県新見市足立・標高980.5m

原文の名称	現代の名称	備考・その他特記事項
天福山	(太平山：推定)	岡山県吉備中央町祿信・標高 698.1m
備後国中野山	(毛無山：推定)	広島県庄原市西城町・標高 1,252m
雲石境之三部山	三瓶山 (道後山：推定)	計算上では視認不可能。 広島県東城町・標高 1,268.4m
檜ヶ仙	妙見山	岡山県津山市宮部上・標高 613m
鷹 仙	高 山	岡山県真庭市高山・標高 919m
蛭 仙	上蒜山	岡山県真庭市蒜山・標高 1,202m
尼ヶ仙	尼ヶ子仙 (霰ヶ山：推定)	計算上では視認不可能。 岡山県鏡野町富西谷・標高 1,074.3m
美坂山	三坂山	岡山県真庭市喜足・標高 902.5m
烏ヶ仙	烏ヶ仙	岡山県津山市大篠奥谷・標高 701m
鐘ヶ仙	(角ヶ仙：推定)	岡山県鏡野町越畑・標高 1,152.7m
因州千州山	(沖ノ山：推定)	鳥取県八頭郡智頭町・標高 1,318.2m
嵯治谷	佐治谷	鳥取県八頭郡佐治町一帯
伯州三徳山	[伯作山三角点]	鳥取県東伯郡三朝町鉛山・標高 1,449.1m
大神山 (大仙)	伯耆大山 (剣ヶ峰)	鳥取県西伯郡大山町・標高 1,729m
二上両山寺	二上山	岡山県美咲町両山寺・標高 689.1m
備前国本宮山	本宮山	岡山県吉備中央町高富・標高 582.9m
金 山	金 山	岡山県岡山市高野尻・標高 499.5m
中 山	御津中山	岡山県岡山市御津中山・標高 356m
鞍 山	間鞍岳 [間倉三角点]	岡山県岡山市間倉・標高 456.6m
兒島常山	常 山	岡山県岡山市灘崎町迫川・標高 307.2m
幸 峰	[小島地三角点]	岡山県岡山市小島地兒峰・標高 300.0m
瑜珈山	由珈山	岡山県倉敷市由珈・標高 274m
粒江山	種松山	岡山県倉敷市粒江・標高 258.4m
福南山	福南山	岡山県倉敷市兒島稗田町・標高 270m
天神山	龍ノ口山	岡山県岡山市祇園・標高 257.1m
小豆島	小豆島	香川県小豆島
鹽飽七島	塩飽七島	香川県広島・本島・牛島・高見島・手島 与島・櫃石島の7島 計算上、牛島・与島・櫃石島は視認不可
象頭山	琴平山	香川県仲多度郡琴平町・標高 524.0m
お釈迦山	中 山	香川県善通寺市吉原町・標高 439.0m
厄切彌谷	弥谷山	香川県仲多度郡多度津町・標高 381.5m
我拜師山	我拜師山	香川県善通寺市吉原町・標高 481.2m

原文の名称	現代の名称	備考・その他特記事項
屏風ヶ浦	屏風ヶ浦	香川県仲多度郡多度津町海岸寺駅の西
五丘山	火上山	香川県善通寺市吉原町・標高 408.9m
雲邊寺山	雲辺寺山	香川県観音寺市五郷・標高 927.0m
大川山	大川山	香川県仲多度郡琴南町・標高 1,042.9m
屋島岨	屋島 [南嶺]	香川県高松市・標高 292.1m
緑ヶ嶽	(無名峰：推定)	五剣山の南東の峰・標高 375.0m
五剣山	五剣山 [八栗山]	香川県木田郡庵治町・標高 366.1m
壇 浦	[讃岐壇ノ浦]	香川県高松市屋島と五剣山の間の入り江
剣 山	剣 山	徳島県美馬郡つるぎ町・標高 1,955m
小富士	高鉢山	香川県綾歌郡綾上町西分・標高 512.0m
飯 山	飯野山 [讃岐富士]	香川県丸亀市飯山町・標高 421.9m
鹽入山	(樫ノ休場：推定)	香川県仲多度郡仲南町塩入・標高 864.7m
伊豫之高根石鉄山	石鉈山	愛媛県北条市西之川乙・標高 1,982m
伊豫不二	伊予富士	愛媛県西条市藤之石乙・標高 1,756m
后居島	興居島 (大倉龍王山：推定)	愛媛県興居島：計算上、視認不可能 岡山県矢掛町上高末・標高 513.5m
高縄山	高縄山 (明神ヶ森：推定)	愛媛県西条市：計算上、視認不可能 愛媛県西条市・標高 1,232m
藝州野路山	野呂山 (仙養山：推定)	広島県呉市：計算上、視認不可能 広島県神石高原町李・標高 742.2m
灰ヶ峰	灰ヶ峰 (星居山：推定)	広島県呉市：計算上、視認不可能 広島県神石高原町阿下・標高 834.7m
御手洗山	一峰寺山 (高丸三角点：推定)	広島県豊田郡豊町：計算上、視認不可能 広島県福山市山野町矢川上・標高 557.0m

注記.

- A. 実際の地名の比定にあたり、コンピュータ処理を実施し、計算上で視認できない地名に関してはその旨を明記するとともに、方位等から推定可能な候補地を選定。
- B. 実際の地名の比定に用いたコンピュータシミュレーションソフトウェアは、”カシミール3D”、バージョン：“8.6.9.20315”を採用。
- C. 計算上、天子山から見て地平線までの距離は、97.4056 km。
- D. 明大寺山（天子山）の地理学上の位置は、国土地理院データベースにある、東経133度52分45秒・北緯34度59分22秒を採用。
- E. 現代の名称・標高などは、国土地理院発行2万5千分の1地図のものを採用。